



この夏休みに取り組んで欲しいことが2つあります。

1つは第4号でお伝えした、Classiラーニングシステムを利用した基礎学力固め。

もう1つは、改めて文理選択から見つめ直し、進路先の比較検討を行うことです。(蛭雪時代4月号参考)

(1) 文理選択のポイント

《複数の観点で総合的に考えることが重要》

ポイント① 教科適正 得意・不得意

ポイント② 興味関心 興味のある社会テーマ，学問

ポイント③ 将来の仕事・職業

大学名や企業名を選ぶことから始めるのではなく、まずは『自分が何を学びたい』のか?『将来何をしたい』のか?考えます。

2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう
《米デューク大学 キャシー・デビッドソン》

《環境問題を解決したい2人の生徒の例》

現代社会の授業で環境破壊の現状に興味をもち、大学に進学してこの問題にかかわりたいと考えました。家族は私に理系を勧めていたのですが、海外での生活や留学にも興味のあった私は、環境保護に対する意識とその歴史的背景について日本と海外の国を比較したいと考えました。それが学べそうな学問分野は文系に多いと知りました。そのため、私は文系を選択しました。

環境破壊をテーマにしたドキュメンタリー映画を見て、環境問題にかかわりたいと思いました。環境保全のルールなどに関する研究にも興味がありましたが、やはり、環境にやさしい製品を実現する技術の発展にかかわりたいと思い、工学からのアプローチを考えました。得意の数学を活かせることも魅力でした。そういった理由から私は理系を選択しました。

(2) 志望学部・学科選びのポイント

《Step1 自分の興味・適性を探る》

Can, will, mustをヒントに一生懸命になれることを探す

あなたが得意なこと、続けられることは何でしょう?(can)、意志をもってやってみたいことは何でしょう?(will)、大きな価値を感じ、使命感をもって取り組めることは何でしょう?(must)。この3つのキーワード「can, will, must」をヒントに、この先ずっと一生懸命に向き合えるのは、どんな系統の何の分野なのかを見極めましょう。「楽しいから一生懸命する」ことは表面的な興味で終わることが多いようですが、「一生懸命するから楽しい」ことは、きっとあなたの軸になります。確かな軸を据え、あなた方が授かっている力を社会に還元しましょう。

熱意があれば適性は後からついてくる

「私は看護師に向いていないのでは?気が弱い方だし、血を見るのも苦手」と悩んでいたAさん。彼女はおとなしく控えめな人柄でしたが、患者さんの役に立ちたいという熱意を強く持っていました。今は看護師として病院に勤め、「もう血には慣れました」と笑顔で話す彼女。本人が弱みだと思っていた性格は、きめ細かな思いやりや一步引いて周りを慮る協調性という強みとなって、現場で活かされています。熱意があれば、能力や適性は後からついてきます。自分を値踏みせず、言い訳せず、尻込みせず、自分の「想い」を直視しましょう。

興味・適性を探る手順は?

① 自分が得意なこと、続けられることを考える(can)

② 意志をもってやってみたいことを考える(will)

③ 大きな価値を感じ、使命感をもって取り組めることを考える(must)

④ 成功体験を振り返り、一心不乱になった理由を分析する

⑤ 自分が社会に貢献できそうな姿をイメージする

3つのキーワードを軸に、熱意と使命感をもてる方向を見定める

3つのキーワード「can, will, must」をヒントに自己分析し、何系統のどんな分野のことなら熱意と使命感を持って持続的に取り組めそうかを考えてみましょう。過去から未来へ「自分が一生懸命になれること」という軸を一本通すイメージで!

続き

志望学部・学科選びのポイント

《Step2 学問への裾野を広げる》

学ぶ内容の具体的なイメージが
やりたいことの発見につながる

「人と関わるのが好き。将来は人を支える仕事がしたい」と言っていたBさん。部活動を怪我で休んでいた時にリハビリでお世話になった経験から、最初は理学療法士を目指していました。保護者から「何か資格を取っておくのがよい」と助言されたことも影響していたようです。しかし、各大学のカリキュラムを詳しく調べるにつれ、少し違和感を覚えるようになりました。さらに、貧困問題に取り組んだ「総合的な学習の時間」をきっかけに、彼の視野は社会問題にまで広がっていきました。結局「身体のケアよりも心のケアに携わり、弱い立場の人に寄り添いたい」と、心理学科に進学したBさん。学ぶ内容を具体的にイメージできたことで、本当にやりたいことを発見できたようです。

問題意識を高めることで
学ぶべき学系が見えてくる

あなたが社会に対して伸ばしているアンテナのうち、どのアンテナが敏感でしょうか。例えばSDGs(持続可能な開発目標)の問題を考える時、自分が関わりたいと思うのは、貧困問題？食糧問題？エネルギー問題？海洋資源問題？その問題の解決のためには、何学部に進んでどんなことを学ばばいい？経済危機、気候変動、難民受け入れなど複数の問題意識を持っていたCさんは、フィールドワークで難民支援に携わっていらっしゃる方の話を聞いて以来、国連職員を目指す夢を持つようになりました。難関大の経済学部に進み、学生時代からNPO法人の活動にも関わり、今は夢をかなえています。漠然と経済を学びたい...と思っている生徒とは、受験段階から明らかに目の色が違いました。

大学の学びへの理解を深めるには？

- ① 関心の高い社会問題と学問との関わりを考える
- ② 大学案内・受験情報誌等で、『学びの特徴』を調べる
- ③ 大学教員の専門を調べ、シラバスで講義の計画と内容を確認する
- ④ 高大連携講座や模擬授業に参加し、大学の研究室に足を運ぶ
- ⑤ 学びの内容や学びの姿から将来のビジョンを描く

究めたい学問や行きたい大学は課題意識の延長線上にある

あなたが積極的に関わり、掘り下げたい社会問題に目を向けましょう。課題を焦点化できれば、追究すべき学問系統やそれを学べる大学が見えてきます。学びたいことが絞れてきたら、大学の研究室の雰囲気を感じておきましょう。

続き

志望学部・学科選びのポイント

《Step3 入試・職業情報を収集・分析する》

職業からの逆算よりも
自分の「軸」を固める

「会計学を究めたい。税理士の合格率が高く、サポートが手厚い大学に行く」と、各大学の進路状況をよく調べて志望校を決めたFさん。将来から逆算して志望校を固めた好例です。しかし、昨今、事情は異なってきています。AI(人工知能)の進化で社会は劇的に変化しており、現存する職業のうち、AIにとって代わられるものも出てくると予想され、先行きは不透明です。就きたい仕事から逆算して学部・学科を決め、大学を選ぶという進路決定は難しくなっていくでしょう。就職がゴールとは考えず、興味・関心や究めたい学問はこれからもずっと自分の人生の軸になるという意識を持ちましょう。「世の中が変化しても、自分にはこれがある！」と誇れるものを見つけましょう。

大学からのメッセージと
得意科目がマッチング

英語力に自信を持っていたGさんは、「得意の英語を活かせる」条件を重視して出願先を検討しました。学びたいことを学べる大学に絞って検索し、科目・配点をチェックし、科目の配点割合を比較し、自分の強みを最大限に発揮できそうな大学を探しました。入学したのは第1志望の大学ではありませんでしたが、ミスマッチを感じることなく、濃密な4年間を過ごしたそうです。「英語の配点が高い」ということは、「英語力のある学生に入学してほしい」という、大学からのメッセージでもあります。Gさんが入学した大学には「将来、英語を活かした仕事に就きたい」と考える学生が多く集まり、高い意識を持つ仲間恵まれたことが、彼女の学生生活の充実につながったようです。

職業への理解を深めるには？

- ① 高校の先生や周りの大人、社会人の先輩などに仕事の話聞く
- ② 興味のある職業で求められる知識やスキルについて調べる
- ③ 大学での学びと仕事の関りを調べる
- ④ 大学案内等で各学部の卒業後の進路状況などを調べる
- ⑤ 自分にはこれがある!という軸(学びの分野)を固める

自分の「軸」になる学問分野をもとに将来のビジョンを描く

大学で何を学びたいか、どんな力を身につけたいか、将来の仕事と関連させて考えることができればいいですね。自分の「軸」を固めることができる大学・学部・学科を探し、不透明な時代を乗り切る「社会力」を磨きましょう。